

～～第8455回～～

阿蘇山（中山仙境、久住山、大船山）

～H30. 6. 7-11～

この時期、くじゅう連山のミヤマキリシマは外せない。行事見出しは阿蘇山となっていたが、先にくじゅうに登る計画とした。残念なことに阿蘇山と雲仙岳は梅雨の荒天で登れなかった。1日目、SWVの皆様を福岡空港でお迎えし、10名乗りワンボックス車で大分県国東半島の中山仙境に向かった。移動日で時間が無いため、短時間で登れる中山仙境に登って、くじゅうへ移動する計画である。古代、国東半島には六つの郷があり、各郷の寺院を総称して「六郷満山(ろくごうまんざん)」と呼ばれている。六郷満山の寺は養老2年(718年)に仁聞菩薩が開基したと伝えられている。仁聞菩薩は宇佐八幡神の化身と言われ、宇佐・国東の地に神仏習合の原点となる山岳宗教「六郷満山」が発展した。今年、六郷満山は1300年の節目を迎えた。現在も多く多くの修行僧が数々の修行の場を辿る「峯入行」が10年に一度行われている。今年は峯入行の年で、中山仙境もそのひとつである。標高317mといものの奇岩絶峰のスリリングなコースが楽しめる。登山口(90m)から登り始めて15分で尾根道に出た。更に20分で無明橋を渡る。2本の石柱を突き合わせた一本橋が絶妙なバランスで架かっている。転落しないように注意して、一人ずつ平均台を渡るようにして通過した。鎖場をよじ登って最高点の高城(たかじょう)を通過し、最後は絶壁を横切るように作られた細い道を下って登山口に戻った。下山後は車で九重町長者原(このえまちちょうじゃばる)の九重ヒュッテ(くじゅうひゅつて)に移動した。九重ヒュッテから見える星生山の北斜面はミヤマキリシマのピンク色に染まっていて翌日の登山に期待が膨らんだ。幸いにヒュッテは貸し切り状態で、夜は坊がつる讃歌を歌って盛り上がった。

2日目、主峰の久住山へ九重ヒュッテから周回する計画だったが雨天のため変更した。朝5:00から朝食を取り、車で登山口の牧ノ戸峠(1333m)に移動した。山はガスが掛かっている時折雨が降る天気だった。登山口で雨具を着て出発した。初めは整備された舗装道や階段を登って行く。しばらく登るとニシキウツギの花が出迎えてくれた。30分程で尾根に出た。いつもは外輪山に囲まれた阿蘇五岳の絶景が楽しめるのだがガスで何も見えない。短い岩場を越えて緩やかな道を登って行くと周囲にミヤマキリシマの花が現れた。今年は例年より10日程開花が早かったが花は待っていてくれた。扇ヶ鼻分岐で久住山へのルートから分かれて扇ヶ鼻と呼ばれるピークに向かう。扇ヶ鼻周辺は、なだらかな斜面が広がっていて、ミヤマキリシマの群生地である。ガスで遠くは見えないが周囲にピンクの絨毯が広がる。夢の中を歩いているような幻想的な光景の中を周回し、扇ヶ鼻分岐へ戻り久住山に向かった。左側に星生山のシルエットを見ながら岩場を越えると久住分かれに着いた。久住分かれには避難小屋とトイレがある。ここから広いガレ場を登っていく。正面に見えるはずの久住山はガスで全く見えない。歩きにくいガレ場を30分登り久住山山頂に到着した。山頂標識で登山者に集合写真を撮ってもらい下山

した。くじゅう連山の最高峰は久住山(1786.5m)ではなく中岳(1791m)である。久住分かれに戻る途中から中岳方向に向かい、中岳直下の火口湖の御池(みいけ)まで行ってみることにした。御池に着いたが対岸に見えるはずの中岳はガスで全く見えない。中岳は諦めて久住分かれに戻り、牧ノ戸峠へ下山した。雨の平日なのに、下山中はミヤマキリシマを見にくる登山者とのすれ違いが多くなった。下山後は九重ヒュッテの温泉で汗を流し、長者原の食堂で遅めの昼食を取った。その後は、渓谷からの高さが日本一の「九重“夢”大吊橋」を観光し、坊ガツル湿原とともにラムサール条約に登録されているタゲ原湿原を散策して九重ヒュッテに戻った。

3日目、天気が回復したので、予定どおり大船山に登った。大船山は、坊ガツルから登るルートがメインで、法華院温泉小屋に前泊して登る登山者が多い。当日は東海大学K2登山隊の隊長をされた出利葉義次さんのパーティが九重ヒュッテに泊まれる予定になっていた。やはり、法華院温泉小屋に前泊され、大船山や平治岳に登って、下山後に九重ヒュッテに宿泊の予定である。出利葉さんにはお会いできなかったが、偶然にも当日は同じ山に登ったのだった。我々は登山者が少ない大船山の南面ルートから登った。南面の岳麓寺ルートは頂上まで4時間以上かかるため、中間地点まで登る登山バスを利用した。バスといっても10名乗りのワンボックス車である。麓のバス停には温泉施設があるため下山後に入浴できて便利である。終点の池窪登山口から出発し30分程で岳麓寺ルートと合流した。その先に岡藩(竹田市)三代目藩主「中川清久」の墓所がある。久清公は領地にある大船山を愛し、自らを「入山(にゅうざん)」と号し、先祖を葬った菩提寺ではなく、先立った我が子を葬った大船山の中腹(海拔1400m)に自分の墓も造らせた。日本一高いところにある殿様の墓は「入山公廟」と呼ばれている。入山公廟入口を過ぎると傾斜が増してくるが、次第に増えてくるミヤマキリシマの花を見ながらゆっくりと登った。正午過ぎに頂上直下のミヤマキリシマ群生地に到着した。頂上は後回しにして花に囲まれて昼食を取った。お腹を満たして大船山の頂上に立ち、前日に登れなかった中岳や天狗ヶ城、三俣山、平治岳など、くじゅう連山の眺望を楽しんだ。大船山の山頂直下にも火口湖の御池(おいけ)がある。せっかくなので御池の辺に下りてから下山した。下りは入山公廟に寄って墓に手を合わせて池窪登山口に戻った。

参加者：8名(静岡南6、磐田1、会員外1)

天候：①曇、②曇/雨、③晴

地図：香々地・湯坪・久住山・大船山・久住

コースタイム：①登山口1320…無明橋1355…高城1430…登山口1522 ②登山口603…扇ヶ鼻748…久住山920…御池945…登山口1155 ③登山口946…山頂直下(昼食)1215-40…大船山1254…入山公廟1445…登山口1535

記録：正村(会員外)